

世界を見よう

～がいこくのくらし たんけん！ たいけん！～（1年生対象）

～日本を 自分を見つめよう～（6年生対象）

西 裕子（倉敷市立琴浦西小学校） 担当教科／全教科

実践教科／学活・体育・音楽・総合・道徳 対象学年／1年・6年 対象人数/62人・95人

【1年生対象の国際理解教育】

実践の目的

- ・ベトナムを含めた外国のくらしや習慣について聞いたり、体験したりすることを通して、外国への興味を持つ。
- ・外国の音楽や遊びを体験することを通して、外国の文化にふれる楽しさを味わう。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ベトナムってどんなに？ 道具や写真を見ながら、ベトナムのくらしや文化について興味関心をもつ	(1)これなんだクイズをする 服（アオザイ・ノンラー ¹ ）・遊び道具・フルーツの写真を見せる (2)学校の写真を見せ、同じところや違うところを探したり、ベトナムの算数の問題に挑戦したりする (3)日本とベトナムの国旗を比べ、同じところや違うところを探し、意味の違いを知る (4)感想を書く	(1)アオザイ／ノンラー／ダ・カウ／写真（ランブータン） (2)写真（学校） ベトナムの算数プリント (3)国旗
2	世界について知ろう 世界の地理について学んだり、あいさつや慣習を聞いたりする	(1)世界地図を見て、日本の場所や世界の様子について知る (2)外国のあいさつの仕方を体験する (3)外国で乳歯が抜けた時の行動の違いについて知る	(1)世界地図
その他	ベトナムの遊びを体験しよう 世界の遊びのおもしろさを味わう	休み時間に、班ごとに分かれて、ダ・カウ ² で遊ぶ	(1)ダ・カウ
3	カメルーンのサッカー遊びを体験しよう 自分の国とは違う遊びの仕方を知る	(1)国旗クイズとあいさつをしてどこの国かてる (2)カメルーンの子が遊んでいる写真を見て、気づくことを話し合う (3)はだし、またはぞうりでサッカーや遊びに挑戦する (4)感想をのべる	(1)国旗 (2)写真

¹ ノンラー（Non La、ベトナム語；Nón lá）とは、ベトナム全土で用いられる円錐形の藁でできた帽子、ベトナム人（キン族）の伝統的な葉笠のこと。（ウィキペディアより）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8E%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%BC>

² ダ・カウ（dá cát）とは、サッカーのリフティングや日本古来の蹴鞠などのように、ボール（はね）を蹴飛ばして遊ぶもの。

4	世界のダンス音楽を聞いてみよう 国によるダンスや音楽の違いのおもしろさを味わう	(1)楽器や道具クイズをする (2)どの曲でどの楽器や道具が使われているかを考える（フラダンス、サンバ、バンブーダンス） (3)ダンスの写真・国の写真を見て、どの国のダンスかを考える (4)感想を書く	(1)竹／ウクレレ／マラカス (2)写真 (3)写真
5	世界の祭りを見たり、ダンスを体験したりしよう 国による祭りの違いを知り、興味をもつ (グローバル授業で、フィリピンの先生とTT ³)	(1)英語でいさつをしたり、天気や体調について話したりする (2)世界のダンスの写真を見て、違いを比べる (3)バンブーダンスに挑戦する	(1)竹 (2)写真
6 ～ 10	学芸会で世界のダンスを発表しよう	(1)ダンスを練習する (2)「世界中のこどもたちが」の歌を学び、練習する。	(1)竹 (2)サンバ用楽器 (3)衣装

この授業に注目！

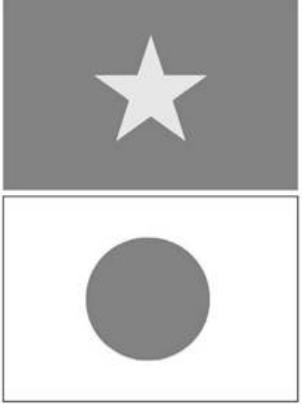
1限目 ベトナムってどんなに？

ねらい：ベトナムのくらしや文化について興味・関心をもつ

夏休みの前に、ベトナムに行くことを伝えると、「どこ?」、「何?」という児童が多かった。「知っている国は?」と尋ねると「がいこく」という子がいる段階である。そこで簡単にベトナムの紹介をし、ベトナムの子どもたちへのプレゼント作り（朝顔を使っての染め物しおり作り）をした。また興味をもつきっかけ作りとして、ベトナムから絵葉書を送っておいた。夏休み明けには、「あの写真きれいだった。」、「あの着物は何？」と感想を述べたり、関心を持ったりしている様子であった。1年生という発達段階から具体物をたくさん取り入れ、体験を通して世界を知る楽しさを味あわせたいと考えた。

	学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	●指導上の留意点
導入	1 これなんだクイズを行う	はてなボックスから、ベトナムの服や写真などを出し、どんなものかを尋ねる ○これはなんでしょう (ノンラー、アオザイ、ダ・カウ、ランブータンの写真・ベトナムの小学校の写真・ベトナムの国旗)	●少しづつ見せたり一瞬だけ見せたりして興味をひきつけられるようにする ●実際にかぶったり、着たり、遊んだりさせる

³ TT (team teaching) : 数名の教師がチームを組んで行う授業

展開1	<p>2 ベトナムの学校の写真を見て、日本との相違点を探す</p>  <p>ベトナムの教室の様子</p>	<p>1 ベトナムの教室と日本の教室を「同じところ」、「違うところ」を尋ねる ○この教室と同じところはどこでしょう ・机、椅子、黒板、教室の広さ ○この教室と違うところはどこでしょう ・黒板の字、掲示物、はだし、私服、ピアス</p> <p>2 ベトナムの算数プリントに挑戦する ・かんたん。字は読めないけど、同じ計算なんだな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教室環境以外にも、子どもたちの服装などにも目を向けることができるようとする ●違いはあるが、ベトナムの子も自分と同じように学校に行つて学習し、友達と過ごしていることに気づくことができるようとする
展開2	<p>3 ベトナムの国旗と日本の国旗を比べる</p> 	<p>1 ベトナムの国旗を見せ、国旗に込められている意味（労働者・農民・兵士・青年・知識人の団結）を話す</p> <p>2 日本の国旗をかくよう指示する</p> <p>3 ベトナムと日本の国旗の同じところや違うところを尋ねる ○日本の国旗と同じところはどこでしょう ・赤色を使っている／真ん中に形がある</p> <p>○日本の国旗と違うところはどこでしょう ・形／色</p> <p>4 日本の国旗に込められている意味を話す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的な背景があり、願いが込められていることを伝える ●戦争の話にも簡単にふれ、どちらにも平和への願いが込められていることを知ることができるようする
まとめ	<p>4 世界の国について話を聞き、感想を書く</p>	<p>世界の国の数を話し、世界中にはたくさんの国があり、日本とは違う様々な文化の中で暮らしている人がいることを伝え</p>	

児童の反応

- ・ランブータンはどんな味がするのかな。
- ・ベトナムもにほんもせんそうをしていた。なんでかな？
- ・にしえうがっこうとおなじべんきょうだったからびっくりした。
- ・たくさんのかいにいってみたい。ベトナムの人にあってみたい。



所 感

本学級には、4月にオーストラリアから来た子どもが体験通学をしていたこともあり、外国に対する興味、関心の高い児童が多かった。また今年はオリンピック年だったこともあり、自分が日本という国にいることや、日本とは違う国がたくさんあるということを知る機会もあったのもよかったです。

「これなんだクイズ」は、自分のくらしと結びつけてどんな使い方をするものなのか予想する姿が見られた。

「きれいな服だから、結婚式に使うのでは?」、「投げて遊ぶ?的に当てる?」など、子どもたちが想像をふくらませながら楽しそうに意見を述べていた。

学校比べは、違う点よりもむしろ同じ点に驚いている児童多かった。算数問題に取り組んだ時も、自分たちと同じような問題をしていることが嬉しかったようで、嬉しそうに解く様子が見られた。

国旗についての話は、少し難しかったようだが、実際に描いたり、形や色を比べたりすることで子どもたちなりに考えることができたようだ。感想からは、外国への興味・関心の高まりを感じることができた。

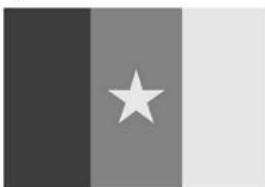
3限目

カメルーンのサッカー遊びを体験しよう

ねらい：自分の国とは違う遊びの仕方を体験する

ベトナムのダ・カウ遊びを体験し、児童は、外国の遊びに少し興味を持つことができていた。

次に、遠い外国でも、自分たちと同じような遊びをしていること、少し形の違う場合もあることに気づかせたいと思った。そこで、カメルーンの、裸足でするサッカー遊びを取り上げ、生活体験の違いを実感させることができればと考えた。

	学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	●指導上の留意点
導入	1 カメルーンの国旗を紹介し、写真から気づくことを話す 	○どこの国の国旗でしょう ○写真を見て気がついたことを言おう ・肌の色が黒い／服が汚れている ・サッカーボールで遊んでいる ・髪がパーマみたいになっている ・裸足で遊んでいる	
展開1	2 アフリカでの生活の話を聞く 	1 同じ遊びでも、アフリカのカメルーンという国では、裸足でサッカーをしていることを話す (学校へ行く時、教会へ行く時などは靴をはくが、普段は草履。草履では、サッカーボールを蹴りにくいので裸足が多い) 2 サッカーを裸足でしてみようと呼びかける ○みんなも裸足でサッカーできるかな? ・やってみたい／いたそう／できるかな	●貧しさを強調しすぎないようにする ●気持ちが向かない子に対しては無理にはさせない

展開 2	3 裸足でサッカーをしてみる	男女でチームに分かれて裸足でサッカーをさせる	●ルールがわからない子もいるので、事前に簡単に説明をする
まとめ	4 体験を振り返って感想を述べたり、カメリーンのサッカーの話を聞いたりする  本田選手とエト一選手	1 感想を尋ねる ○やってみてどうでしたか? ・楽しかった／気持ちよかったです ・ちょっと痛かった／あまり上手に蹴られないで、カメリーンの人はすごい 2 写真を見せながらカメリーンのチームはワールドカップに出場するほど強いことを話す 3 日本選手と抱き合う写真を見せ、サッカーを通して国同士が仲良くなっていることを伝える	●いろいろな人の感想を認める ●国によっていろいろなやり方があること、でも、遊びやスポーツを通して楽しく関わりあっているのは同じであることを強調する

児童の反応

- ・すこしいたかった。カメリーンの人のあし、すごいな。
- ・はだしのサッカーはきもちがよかったです。
- ・ルールがわからなくてむづかしかった。



所感

「裸足でサッカーができる」。多くの男の子は、そのことに喜び、楽しそうに活動をしていた。しかし、この授業は課題が多く残った。

1つ目は、ゲームを行って勝つことに意識が向きすぎてしまったことである。

男の子の中には、本気になりすぎて、言い合いになる子どもも見られた。一方で、女の子は、ルールが分からず、ゲームにならないことがあった。サッカーのゲームではなく、ボールを蹴って的にあてるなどのゲームにしてもよかったですのではないか。

2つ目は、体験を比較することができにくかったことである。始めから、靴を脱いだ状態で運動場に出たため、靴の場合と裸足の場合を比べにくかったように思う。途中から、裸足でするという方法が有効ではないか。

3つ目は、生活体験の違いとして意識できている子が少なかった。元カメリーンの協力隊員から、話を聞かせてもらって考えた授業だったので、現地の子どもたちの様子や声を取り入れることができれば、もう少し違いを実感させることができたように思う。

4限目

世界のダンス音楽を聞いてみよう

ねらい： 国によるダンスや音楽の違いのおもしろさを味わう

音楽の時間に、新しくウッドブロックやトライアングルなどの楽器を習っている時期であった。外国の楽器や音楽に触れ、音楽やダンスを通して世界を知る楽しさを味あわせたいと考えた。

	学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	●指導上の留意点
導入	1 楽器の音を聞いてどんな楽器かあてたり、竹がどんな風にダンスに使われるか考えたりする (マラカス・ウクレレ)	○どんな楽器でしょう ・マラカス、ギター、バイオリン、竹を提示しダンスで使うことを話し、どんなダンスをするか予想させる ○これを使ってどんなダンスをするでしょう ・振り回す ・叩いて音を出す ・下をくぐる	●箱の中で、音を出し予想することで、注意深く聞くことができるようとする。 ●最近習った楽器をあげ、音を比べる。 ●子どもたちに自由に予想させることで、ダンス音楽を聞く気持ちを高める
展開1	2 曲を聞き、どの曲でどの楽器や道具が使われているか考える 曲の感じから、それぞれ思ったことを書く	○どの曲でウクレレ、マラカス、竹が使われているか当てよう サンバ→マラカス フラダンス→ウクレレ バンブーダンス→竹 ○曲を聞いて、気づいたこと思ったことを自由に書こう (サンバ) ・ノリノリ、元気いっぱい ・児島の鷲羽山ハイランドで聞いたことがある (フラダンス) ・ハワイの音楽、ゆったりした感じ ・テレビのコマーシャルで流れている (バンブーダンス) ・スピードが速い ・竹をずっと叩いている音が聞こえる	
展開2	3 ダンスの写真を見て、どの音楽でどのダンスを踊っているか考える	○3つの写真のうち、どの音楽がどのダンスの写真でしょう	●服や背景にも目を向ける
まとめ	4 世界地図を見ながらそれぞれの国や踊りの説明を聞き、感想を書く	(サンバ) サッカーが強いブラジル リオのカーニバルという大きな祭りで、踊られる (フラダンス) 海の綺麗なハワイの踊り 一つ一つの動作に意味がある (バンブーダンス) フィリピンやベトナムの踊り 米の収穫を祝う意味があった	●グローバル支援の先生と次の時間にバンブーダンスに挑戦することを伝える

児童の反応

- いろいろなおんがくやダンスがあることがわかった。
- がいこくのおんがくをきくと、うきうきした。ほんとうにちがうおんがくだ。
- サンバははやくて、フラダンスはゆっくりうみのかんじ、バンブーダンスはちょっとおもしろいダンスだった。



この楽器はなんだ？



この曲はどの写真の国かな？

所 感

児童はとても興味をもっていた。今までの生活経験をたよりに、写真の情報と音楽を結びつける活動は、簡単だったようだ。しかし、すぐに踊りだしてしまい、途中落ち着くことができなくなった子もいた。

音楽だけよりも、動作を取り入れ、ダンスの違いに注目させてもよかったです。

子どもたちなりに違いを感じたことが、感想から分かる。本校の地域は祭りがとてもさかんなので、その囃子と外国の音楽を比べたりしても興味をもてたのではないかと思う。

【6年生対象の国際理解教育】

学校のリーダーとして活躍することの多い6年生。何度か担任した学年だったこともあり、国際理解の授業を4時間させてもらえたことになった。中学校に向かう前に、世界への興味関心を高めるとともに、自分の状況のありがたさや日本のすばらしさに気づく機会となればよいと考えた。

実践の目的

- 言語や識字、格差などの現状や問題について知り、世界の中にある日本や自分を意識する。
- 開発途上国での暮らしについて知り、日本の生活のありがたさを実感するとともに、自分の生活を見直す。
- 開発途上国で活躍する日本人を通して、日本人すばらしさについて触れ、自分の生き方を考える。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 ・ 2	ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」 ⁴ 世界の現状について知る	(1)ベトナム語でいさつをし、言葉の理解できない状況を体験する (2)役割カードに従って、世界の現状を体験する ・人口／男女比／言語／人口分布／富の配分 (3)「世界がもし100人の村だったら」のスライドを見せ、意見交換する	プロジェクト一 役割カード ロープ

3	途上国の現状を知ろう 開発途上国暮らしについて聞き、自分の生活を見つめ直す	元青年海外協力隊員Kさんの話を聞く	パワーポイント
4	日本によさを考えよう 日本や日本人のよさ・すごさについて考える	(1)日本のいいところを <u>ウェビング法</u> ⁵ で班ごとに書く (2)ベトナムで撮った写真（日本人が関係しているもの）を見て、何をテーマで集めた写真かを考える (3)日本人が関わっているそれぞれの仕事について話を聞き、なぜこんなにも日本人が活躍しているのかを考える (4)日本人のよさについてウェビング法で班ごとに書く (5)日本の問題点について少し触れ、感想をカードに書く	写真 ワークシート

1・2限目 世界がもし100人の村だったら

ねらい：世界の現状について知る中で、日本の立場や自分の置かれている状況について知り、世界に目を向けようとする気持ちをもつ

児童の反応

- いろいろな土地でいろいろな悩みがある。自分のことだけ考えるのではなくみんな平等にくらせたらしいと思う。
- 分け合うことの大切さを知った。
- 裕福でない国が、がんばっても裕福になれないのはなぜだろう。

所 感

ワークショップでは、にぎやかに活動し、最後の「世界がもし100人の村だったら」の話は、静かに聞き入っていた。児童にとってこの授業で知った現実は、衝撃的だったようだ。もっと平等にならないのだろうか。どうしてこういうことになっているのかという問題意識をもった感想が多く、嬉しく思った。

富の配分のワークショップでは、平等に分けたいという意見が児童から出たため、平等に分け合うかたちに授業を展開したが、傲慢な態度で飴を渡す児童がいた。小さなものやお金も大切に扱うことや、現実は、物質的な支援だけをしているわけではないことを考えると、無理に平等に分配しなおす必要はなかったのかもしれない。

全体としては、世界の様々な状況を、活動を通して伝えることができ、児童が世界に目を向けるいい機会になったのではないかと思う。

⁴ ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」：実際に身体を使いながら世界の格差や多様性を体感する教材

⁵ ウェビング法（派生図）：ある事柄に関して、そこからどんなことにつながるか、また何が原因かといった因果関係を、派生させて考え模造紙上に書き出していく方法。

ねらい：日本や日本人のよさを考えてることで、自分の生き方をみつめ直す

6年生の担任と、国際理解を通して、児童に1番何を伝えたいか相談をした際、日本人としての誇りという言葉が出てきた。暗いニュースが多い現在の日本で、日本の素晴らしさを実感することは、少ないように思う。ちょうど、伝統文化体験を1月にすることもあり、日本や日本人のよさ、素晴らしさを考えることができればと考えた。

	学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	●指導上の留意点
導入	1 ニジェールの話を聞いて感想を交流する	○元青年海外協力隊員Kさんの話を聞いて、感想を発表しよう ・食べ物に困っているので、家を回って食べ物をもらう話にびっくりした ・全然暮らしが違う ・日本は本当に裕福なんだと思った	
展開1	2 日本のよいところをあげる	○日本のよいところを考えよう ・食べ物がある ・病院に行く ・毎日学校に行く ・交通の便がいい ・戦争がない	●キーワードがたくさん出せるよう、班ごとに画用紙にウェビング法で記入していく ●困っている班には、日常生活を振り返って考えるよう助言する
展開2	3 世界で活躍している日本人の様子を聞き、日本人のいいところを考える  病院  下水処理場	○ベトナムで撮った4つの写真は、何をテーマに集めているでしょう。 ・有名なもの ・ベトナムの人が大事にしているもの 4枚の写真の裏に、活動している日本人の写真を撮っておき、活動内容を述べながら紹介する ○農業・建設・医療・環境整備など様々な場所で、多くの日本人が携わっているのはなぜでしょう ・高い技術があるから ・優しいから ・お金があるから ○日本人のよいところ、すごいところを考えよう ・時間がきちんと守れる ・親切 ・気配りができる 世界が考える日本人のいいところベスト5を紹介する 1 親切 2 まじめ 3 信頼できる 4 マナーのよさ 5 謙虚	●みかんの木・病院・空港・下水処理場の4つの写真を拡大して提示する ●画用紙にウェビング法で記入する ●日本人の勤勉さから得た戦後の復興や震災時のマナーのよさなどに触れ、日本人のよさを具体的にわかるよう説明する

まとめ	<p>4 感想を書いて、交流する</p> <p>日本の問題点（自殺、いじめ、犯罪、高齢社会など）について少し触れる 今回の授業を通して感じたこと・考えたことをカードに書く</p>	<p>●先進国日本の中での問題点を上げることで、自分の生き方を深く考えることができるようしたい</p>
-----	---	---

児童の反応

- ・日本が違う国をこんな風に助けているなんて知らなかった。
- ・私も、親切で人の役に立つ人になりたい。私が大人になっても世界からそう見られる日本人でいたい。
- ・途上国の人たちをもっと考えたい。もっと外国のことを知っていきたい。
- ・日本人にしかできないことを今日から考えてみたい。
- ・学校に行けること、毎日ご飯を食べられることにもっと感謝しよう。



所感

「世界がもし100人の村だったら」のワークショップ後の感想では、「富を平等に分けたらいい」という感想が多かった。しかしこの授業後には、日本人だからこそできることを考えたい、やってみたいという感想をもつ児童が増え、嬉しく思った。

児童にとって、外国人と接する経験のない子どもがほとんどであるため、日本人のよさを考えることはとても難しかった。宿題を毎日すること、人に親切にすることは「当たり前」のことであるため、それを良さと言われてもしっくりこないという感じだった。しかし、戦後の焼け野原の写真を提示し、勤勉さがあったからこそ得られた戦後の復興の話をしたり、東日本大震災時の日本人のマナーのよさが世界から賞賛されたことを話したりすると、なるほどという表情を見せていた。また日本の生活のありがたさを改めて感じた児童も多かった。

全体を通しての成果と課題

ベトナムを1つの切り口に、世界や世界の諸問題に少しでも目を向け、興味をもつことができたらという思いで授業を実践した。成果としては、以下の点が挙げられる。

①世界に興味をもつ児童が増えたこと（1年・6年）

- ・自分のクラスでは、図書室に行くと、海外の本を手にとって見ようとする児童が増えた。
- ・絵本も「外国のおはなしかな？」と意識して見る子どもがいる。
- ・世界のダンスは、学芸会が終わった今でも踊りだすほど、親しむことができている。1年生での国際理解教育は、私自身難しいと思っていたが、知らない段階だからこそ、いろいろなことを自然と受け入れることができるよさを感じた。

6年生では、元ニジエール青年海外協力隊員のKさんの話が印象的だったようで、もっと世界を知りたいという感想が多く得られた。6年生という時期に世界に目を向け視野を広げようという思いを持たせることができたのはよかったです。

②児童が自分の考え方や生き方を見つめる機会が持てたこと（6年）

6年生は、たった4時間という短い時間であったが、たくさんのことを感じたり、考えたりしていることが感想からわかった。はじめは、「途上国の人はかわいそう」という意見がいくらく見られたが、最後の授業では「自分はこうありたい」という感想が多かった。これは、児童が自分を見つめる機会になった証拠だと思う。

世界の現状、途上国の現状、そして最後に日本を見つめるという流れで授業を展開できたのもよかったです。

③色々な教科や行事を意識して授業を展開できたこと（1年・6年）

1年生では、音楽や体育、6年生では、道徳や社会との関連を意識して、授業を展開した。

また、1年生では、学芸会をこれまで学習したことの発表の場として生かすことができた。国際理解の授業として大きく打ち出すことができなくても、色々な授業や生活場面で、国際理解の学習はできるということに気づいた。全校朝礼で世界の挨拶の違いを伝え、挨拶の大切さについて話すなどできたこともよかったです。

④他の先生の協力を得て、授業が展開できたこと（1年・6年）

今回は全て、同学年の先生や、6年生の担任と協力したり、話し合ったりした上で授業展開となった。このことを通じて、他の先生方にとっても、国際理解の授業について少し知っていただく機会になったのではないかと思う。

一方、課題は以下の点が挙げられる。

①児童の実態にあう授業の工夫や、教材の作成

今回、児童の実態に合わせず、授業がうまく進まなかったり、児童が考えにくかったりした場面があった。児童の思いや実態をもっと考慮して、授業を展開できるようになりたい。

②学習して得た「思い」を「行動」に移していくための指導

「世界をもっと知りたい」、「私は、こうありたい」など、今回感じたことをさらなる興味へつなげたり、将来を考えるきっかけを作ったりして、いかに行動に移していくかが大事であると思う。今回の授業で終わりではなく、継続的に話をし、児童の意識をさらに高められるようにしたい。

今回の授業を通して、自分自身も多くのこと学ぶことができた。これと同時に私ももっともっと知りたいからではなくてはと強く感じた。これからも研修に励みたい。

参考資料

【書籍】

「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら第3版」(開発教育協会2011)

「教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻」(独立行政法人国際協力機構 中部国際センター)

【インターネット】

「外国人が思う日本のいいところ」<http://matome.naver.jp/odai>

「異なる文化を楽しみながら学ぶ事典」<http://www.netlaputa.ne.jp/~tokyo3/ha.html>

JICA国際協力機構・(財)岐阜県国際交流センター所有資料を活用

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/Oda/edu/contest/pr06-1.pdf>